
狂気

羽後響

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

狂気

【Nコード】

N1429Z

【作者名】

羽後響

【あらすじ】

主人公「月村綾」は合コンで一流シェフの「吉田秀一」と意気投合し、クリスマスに会うことになった。

その後、婚約するもののちょっとした口論から終わりを迎えてしま
う・・・

クリスマスの夜、私は走っている。

私は月村綾^{つきむらひなせ}。

これから合コンで意気投合した男性、吉田秀一^{よしだしゅういち}と会うことになっていたのだ。

最近よくニュースになっている「平成の辻斬り事件」と呼ばれる日本刀による殺人事件の犯人でありながら、いまだに捕まったことが1度もない人物がいる。その人物の崇拜者が密かに集まる掲示板があった。今では、社会現象になるほど掲示板の会員も増えている。私もその会員の一人であることを告白しても秀一さんは私を拒むことはしなかった。

この人は一流のシェフで、日本のほぼ全国に出店しているレストランの創始者であった。

とくに、肉料理にかけては右に出るものはいないと雑誌で評されていた気がする。

駅について2、3分ほど彼の姿を探していた。
すると

「あ、月村さんですよね？」

声のするほうを見てみると、そこには短髪で髭もきれいに整えてある清潔感あふれる男性が立っていた。

「えっと・・・じゃあ、あなたが吉田さん？」

「そうですよ。いやー、目印にって言ってたその髪飾りつけてたからそうかなって思ったもので。それじゃ、近くのカフェに行きましようか。」

そしてカフェに着き、嫌われること覚悟で「平成の辻斬り」の話を持ち出す。

「吉田さんは平成の辻斬りをどう思います？」

「そうだなあ、僕はやっぱり命の大切さを知ってほしいかな。あ、でも君にその崇拜者をやめろっていうわけじゃないよ。」

相変わらずのコメントだった。

私は余計に彼に心を惹かれてしまった。

それから何度も会い、一月ほどで付き合うこととなった。

それから婚約も決まった。

そして、この日は秀一さんの家に呼ばれていた。
得意の料理をふるまってくれるらしい。

「ピンポン」インターホンが鳴る。

「はい？」

「あ、私だけど」

「あ、綾さん。入っていいよ。」

彼の家に入ると、相変わらず中はとてもきれいに整理整頓されていた。

料理をごちそうになり、結婚の話が始める。

その後、「平成の辻斬り」について口論になった。

長い間崇拜してきたものを、いきなり止めると言われて私はつい、カッとしてしまった。

そしてついに言ってしまった。

「私はあなたみたいな弱い人より平成の辻斬りみたいな強い人のほうがよかったわ!!」

「じゃあ・・・僕も大事なものを壊せば強くなれるんだよなア!!」

ズバッ!!

いきなりすぎて何が起きたのかわからなかった。

だが、すぐに気が付く。

私は、包丁で胸のあたりを刺されていた。

だが、それだけでは終わらず、何度も何度も刺された。

何度も刺している最中の彼の表情を見たとき、驚愕した。
笑っているのだ。

そして、私の意識が朦朧としてきて、あまり動かなくなったのを確認するとはつきりと耳元で言った。

「僕は強いんだよ……わかってくれたかな……綾……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1429z/>

狂気

2011年12月5日00時52分発行